

自由課題: 苦痛のスクリーニング陽性患者の相談件数
(平成29年7月1日～12月末日)

施設名	Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Act (改善)
<p>12 大阪市立総合医療センター</p>	<p>相談件数20%増(51件) 【計画】 外来ラウンド導入 面談システムの改善 緩和ケアチームリンクナースの育成</p> <p>【評価指標】 苦痛のスクリーニング面談実施数とそのうちの緩和ケアチーム登録数</p>	<p>問診票を改善し、1日1回、緩和ケアチームナースが各外来ブースをラウンドする。 ・つらさの項目が6項目中3項目陽性で相談希望がない患者や問診記入欄から面談をしたほうが良いと思われる患者をピックアップし、主治医と相談または外来看護師への後押しを依頼する。 つらさのある人に対して、相談しやすいように面談時間をあらかじめ予約できるシステムにする。 病棟、外来のリンクナースに対して、苦痛のスクリーニングの意義と対応方法について教育する。</p>	<p>< 外来ラウンド > ・7月10日～開始。 ・方法: 左記対象患者のスクリーニング結果を診療科に情報提供する。 75件/6ヶ月(1日0～7件)ラウンドを開始。 ・結果: 面談実施数10件(13.3%)緩和ケアチーム介入7件 診察に携わる医師や外来看護師から患者への声かけが行なわれるようになり、緩和ケアセンターとの連絡・相談が増えた。</p> <p>< の問診票改善+後日相談システム導入 > ・問診票の表記「相談を希望する:はい/いいえ」 「つらさにはいと回答された方へ:当日相談・後日相談・今は相談しない」 ・後日相談導入</p> <p>・月1回、緩和ケアセンターと各外来のリンクナースによるリンクナース会開催。 ・議題「事例報告」「現場の問題」 ・結果: リンクナースから積極的に改善策の提案や困難事例の相談が行なわれ、スクリーニングの効率的な運用と相談件数増加につながった。 例) 作業改善・放射線科での実施・入院経験がない患者でへの実施(これまでは入院がスタート)</p> <p>< 苦痛のスクリーニング面談実施数とそのうちの緩和ケアチーム登録数 > 総実施件数: 3153件 面談実施数: 94件(前年度43件、218%増)うち10件は外来ラウンド対象患者 緩和ケアチーム登録数14件 ～により、面談実施数は倍増した。緩和ケアチーム登録数は変わらなかった。</p>	<p>継続 継続 継続</p>